

人間学研究 Vol.3

巻頭の言葉 日野舜也

公開講演会・シンポジウム

『日本文化論の昨今』

—外国から見た場合と日本から見た場合— ベフ・ハルミ (1)

『家族における父親』

1. 父という余分なもの 山極寿一 (13)

2. 精神分析の父としてのフロイトと父親のあり方 妙木浩之 (23)

ディスカッション (35)

「家族における父親」の感想 (45)

阪彩子・村井陽之

『京都の都市伝統の創造性と変革性』

—大文字五山送り火をめぐる— とくに左大文字を中心に— (47)

和崎春日・伊藤唯真

論文

博物館の展示とアメリカ・インディアン 青柳清孝 (85)

従来の死と脳死

—脳死の講義と学生の反応— 森忠三 (99)

ハンディクラフトからみるインドのチベット社会

—カルナータカ州バイラクッペ・コロニー報告— 杉本星子 (107)

初回面接の方法論

—心理臨床における「聴き方」— 高石浩一 (115)

人が人肉を食べてはいけない理由

—インド仏教の食倫理— 平岡聡 (125)

共同研究「京都論」活動報告 (139)

人間学研究所共同研究班「食と癒しの文化」

—2001年度研究活動報告— 安田ひろみ (141)

人間学研究所事業報告 (2001～2002年度) (143)

編集後記 平岡聡